

# 320人が決意固めあう！松戸市明るい会が学習決起集会

2月10日（日）午後、松戸市明るい会（「市民が主人公」の明るい松戸市をつくる会）は、森のホール21小ホールで「知事選勝利！学習決起集会」を開催し、320人が参加しました。

舞台には、立派な舞台看板の下に団体旗と三輪ノボリが林立。「会」の代表員が紹介され、代表して「国保をよくする会」事務局長の堀田セツ子さんが「9条の危機、三輪知事で9条も国保も守ろう」と呼びかけました。



県政学習の講師は日本共産党千葉県議団の木幡充事務局長さん。50分にわたり、16年ぶりの一騎打ちの情勢、明るい会と三輪候補の政策、森田県政の実態を報告し、「知事が変われば、例えばこうできます」と、子どもの医療費の中3までの完全無料化、国保一世帯1万円の引き下げを例にあげました。

木幡さんは最後に、三輪さんの生い立ちと、千葉県政で果たしてきた重要な役割、特によい教育のための三輪さんの頑張りを報告し、知事候補としてピッタリ、三輪さんとともに憲法が生きる県政へと訴えました。参加者は「分かりやすく、力が湧いてきました」と感想を寄せていました。

県政報告を受けて、各構成団体から決意表明行われました。

千葉土建松戸支部書記局の告坂さんは「一人親方」の厳しい状況を報告し、三輪知事誕生でリフォーム助成制度や公契約条例を実現し、安心して働ける建設業界にと訴えました。

松戸民商会長の阿部さんは、赤字でも消費税を納めなければならない中小業者の実態を報告し、三輪勝利で国保料を引き下げ、強制徴収をやめさせるために、知事選本番中の3・13重税反対統一行動も含めて奮闘する決意を表明しました。

新婦人松戸支部長の能登さんは、長男の私立高校の学費の負担が重く今年からパートに出たこと、次男の小学生はいじめが心配、放射能による内部被ばくも心配と語り、「三輪知事でモヤモヤを吹き飛ばそう」と訴えました。

松戸教職員組合書記長の佐古さんは、過労死ラインを超える超過勤務で、若い教員から在職死も出る教員の実態を告発。少人数学級や保護者の負担軽減の要求運動の中心で頑張っている三輪さんを知事にと訴えました。



日本共産党松戸・鎌ヶ谷地区副委員長のみわ由美さんは、保育所の待機児童の数字に表れない深刻な実態、松戸のある特養に入所を希望したら「あなたは600人待ちよ」と言われてショックを受けたという特養不足の実態を紹介。「もう知事を変えるしかない」と訴えました。

最後に、市原の決起集会から駆けつけた三輪定宣知事候補が、参加者と握手しながら会場を回ると、花束が次々と届けられ、チョコレートのレイも首にかけてもらいました。

登壇した三輪候補は、16年前の知事選で明るい会の石正二候補が「明日の天気は変えられないが、明日の政治は変えられる」と沼田知事に肉薄したこと、その時に松戸では石井票が6万8千、沼田票が5万5千と完全に勝利していたことを紹介し、「青年に平和な社会を」、「鉛筆一本の奇跡を」（投票所で「三輪」と書いて県政を変えること）と訴え、大きな拍手に包まれました。



決起集会は最後に、日本共産党松戸市議のうつの史行市議（「松戸市明るい会」事務局次長）の行動提起、松戸教職員組合委員長の石澤さんの「ガンバロー三唱」で、知事選勝利の決意を固めあいました。



集会後、最寄りの新八柱駅で、参加者を中心に50人が、三輪定宣候補とともに県政刷新を訴えました。